

稲作農家への野菜作導入手法に関する試案

高山 真幸

(秋田県農業試験場)

Ways to Introduce Vegetable Production in Rice Farming

Masaki TAKAYAMA

(Akita Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

稲作を基幹とする秋田県農業にとって、米価の低迷と生産調整の強化は深刻な問題であり、稲作の経営改善を進め、収益性の向上を図ることが喫緊の課題となっている。しかし、本県の稲作依存体質は、東北各県の中でも際だって強く、そこから脱却するための、転作の積極的活用による野菜生産の振興が強く求められている。そこで本稿では、稲単作的な地域における野菜生産の取り組みを通して、稲作農家へ野菜作を導入するための方策について検討する。

2 稲単作地域における野菜生産の取り組み

稲単作地域の代表として取り上げる仙北郡仙南村は、県南の大曲市と横手市に隣接する平地農村である。平成12年(2000年)現在、総農家数は1,353戸、1戸当たり経営耕地面積は1.81haで県平均(1.68ha)をやや上回っている。水稻は生育が安定して多収である。平成11年の農業粗生産額に占める米の割合は87%(県平均64%)で、稲作部門への依存度が極めて高く、野菜の割合は9%(県平均14%)と小さい。

仙南村は32の集落で構成されており、数は少ないものの、施設野菜や花き等の生産が盛んな複合経営型集落も存在している。そこで、農業振興・複合的なN集落と振興的でないS集落で、将来の経営意向について調査を行った(表1・2)。農業振興的なN集落では積極的な回答があり、特に水田面積2ha以上の階層に経営拡大の意向が多い。N・S両集落で販売用野菜を栽培している農家は、いずれも家族労働力が2~3人、水田面積は2ha以上であり、トマトのハウス栽培を主体に導入している(表3)。「既栽培農家の指導」の得られることが導入の契機となる場合が多く、先進農家の果たす役割が大きい。

平成13年度からトマトのハウス栽培に取り組み始めた、S集落のK経営における導入の最大の理由も、近くに栽培している農家が存在し、その指導が得られるからである

表1 仙南村代表集落の概要 (単位: 戸, ha)

集落	農家数				500万円以上 販売農家数	ハウス 農家数	1戸当たり 経営耕地面積	圃場区画
	計	専業	1兼	2兼				
S	41	1	10	30	4	1	1.74	1ha主体
N	43	3	10	30	14	7	2.34	30a主体

注. 平成7年農業センサスより作成

表2 代表集落における将来の農業経営に関する意向
(平成12年) (単位: 戸)

集落	水田面積	拡大	現状	縮小	離農
S	2ha未満	0	13	2	4
	2ha以上	0	13	1	1
	合計	0	26	3	5
N	2ha未満	2	10	2	2
	2ha以上	6	13	1	1
	合計	8	23	3	3

注. 1) 不明は除外
2) 「拡大」の部門は、稲作2戸、稲作+露地野菜・稲作+施設野菜・施設野菜+花き・花き各1戸

表3 代表集落農家における販売用野菜の導入状況
(平成12年)

集落	農家	家族労働力	水田面積	野菜名	野菜作付面積	導入の契機
S	A	3人	5.01ha	トマト	ハウス 700㎡	既栽培農家の指導
	B	2人	2.13ha	トマト	ハウス 200㎡	既栽培農家・JAの指導
C	3人	4.71ha	ソラマメ	露地	5a	JAの指導
D	3人	4.45ha	トマト	ハウス	2,740㎡	農業大学校での技術習得
N	E	3人	3.44ha	トマト	ハウス 600㎡	既栽培農家の指導
	F	3人	3.08ha	トマト	ハウス 1,000㎡	後継者の就農
	G	2人	2.60ha	トマト	ハウス 230㎡	既栽培農家の指導

注. 1) 野菜名は最も販売額の多いもの
2) 他に、Cでナス、Dでホウレンソウ、Fでソラマメ・ナスを販売用に導入
3) N集落では、他に2農家で花きを導入

(表4)。経営主夫妻と長男は農外に就労しており、農作業は主に朝夕と休日に行われるが、長男の妻(子育て中の専業主婦)と経営主の父母の3人の補助的な労働力により、ハウスの管理は可能であり、家族労働力の有効利用を図ることも野菜作導入のねらいとされている。栽培初年目はわからないことが多く、いつでも気兼ねなく相談できるような栽培技術指導体制の整備を強く望んでいる。今後トマトの生産が軌道に乗れば、ハウス規模を拡大したい意向である。

3 稲作農家への野菜作導入方策

県では、戦略作目の産地拡大対策を広域的に推進するための事業を、平成12年から実施している。これは、野菜の産地拡大に必要な資材・施工費等に対して助成するもので、広域JAによるリース方式で実施されている。仙北地域の野菜振興をめざし、県の農林事務所が、管内町村との連携によりアスパラガスの新規付付け可能者のリストアップと

表4 仙南村K経営の経営概況とハウス栽培トマト新規導入の理由(平成13年)

家族労働力		農外従事	水田面積 (ha)		
経営主 (50代)	あり		稲作	転作	計
妻 (50代)	あり		1.18	0.40	1.58
長男 (20代)	あり		ハウス面積		
長男の妻 (20代)	なし		480㎡		
父 (70代)	なし		水稲作業委託		
母 (70代)	なし		収穫・乾燥・調製作業		
導入の理由			関係機関への 要望事項 栽培技術に 関する指導 体制の整備		
①既栽培農家の指導が得られる					
②家族労働力が有効利用できる					
③収穫作業が比較的容易である					
④価格がおおむね安定している					

ダイレクトメールによる栽培誘導を図った結果、今年から7町村の27戸の農家がこの事業を利用したアスパラガスの栽培に取り組んでいる。仙南村でも6戸の農家がそれぞれ10~20aに新たに導入しているが、こうした作付け誘導は、行政主導による野菜生産拡大事例と考えられる。

仙北郡千畑町のT経営は、生産調整を契機に水稲育苗ハウスのあと利用によるトマトを先駆的に導入した(表5)。JAに積極的に働きかけ、その産地化に大きく貢献しており、こちらは農家主導による生産拡大事例といえよう。トマトからキュウリへの品目拡大も行われ、現在T経営では、後継者がキュウリの栽培に取り組んでいる。

表5 千畑町T経営における経営の概況と展開過程

家族労働力	水田面積 (ha)			野菜名	野菜作付面積
	稲作	転作	計		
3人	2.00	1.10	3.10	キュウリ	ハウス 2,670㎡
年次	経営展開過程				
昭45	水稲共同育苗施設の設置と硬化ハウスのあと利用によるトマト栽培の導入				
48	野菜専用ハウスの導入による「キュウリ+トマト」の年2作体系の実現				
56	後継者の就農によりハウス(キュウリ)規模を拡大				
60	組織的な生産活動の推進により経営主が県の指導農家士に認定				

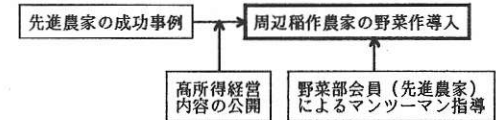
しかし、農外収入主体の稲単作農家が、いきなり集約的な野菜作の導入を決断するのは困難なことも多い。その場合、まず土地利用型作物の栽培から始めて、徐々に野菜作へシフトしていくことも考えられる。仙南村では、平成12年にJAや普及センター等の関係機関を集めて「村振興作物検討協議会」を発足させ、今年はヒマワリとソバの栽培に取り組んでいる。このような土地利用型作物の作付けにより透水性の改善が図られるため、次の段階でより収益性の高い野菜作へ誘導していくという方法も有効であろう。

仙南村には、国道に面し広い駐車スペースを確保した農産物直売所がある。自給用野菜や山菜等の販売を行っており、農家の主婦の現金収入源となっている。このような農産物販売の楽しさの中から、女性を中心とした野菜作へ誘

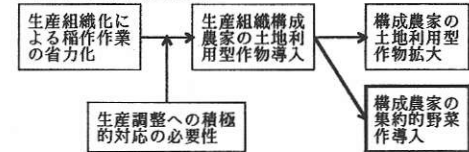
導することも考えられる。また、村に存在するカントリーエレベーターや生産組織等による稲作の省力化は、個別経営を補完し、野菜作導入のためのプラス要因となり得る。

以上の検討を踏まえ、稲単作地域での野菜作導入の進め方を考えてみたい(図1)。まず、①先進農家が周辺の稲作農家を誘導し点から点へ作付けを拡大する「農家主導型」の導入が考えられる。また、②稲作の省力化が土地利用型作物の導入を経て野菜の栽培につながる「稲作生産組織主導型」の導入や、③直売所での自給用野菜の販売が本格的な野菜生産の契機となる「農産物直売所活用型」の導入も考えられる。これらの条件が整わない場合でも、④行政機関が農家に働きかける「行政主導型」の導入は可能であろう。いずれの場合でも、JAや普及センター等の機関による新規導入農家への個別的濃密指導が不可欠となる。

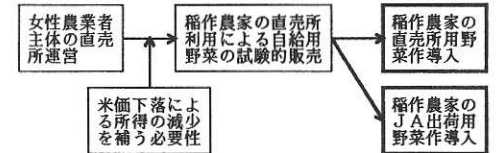
①農家主導型



②稲作生産組織主導型



③農産物直売所活用型



④行政主導型

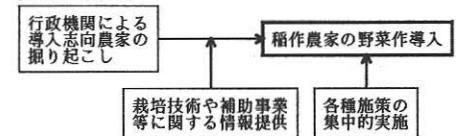


図1 稲単作地域での野菜作導入パターン

4 ま と め

本稿では、稲単作地域における野菜作導入の進め方には、いくつかのパターンが考えられることを指摘した。事例の仙南村ではこれらのパターンが混在し、どれも野菜作導入の決め手とはなっていない。しかし、アスパラガスの例にみられるように、野菜作への関心の低い地域では、行政の強力なバックアップと先駆的農家の育成が並行して行われることにより、導入が加速されるものと思われる。こうした取り組みの継続により地域の野菜生産を拡大し、更には転作野菜の産地化にまでつなげていくことが期待される。